住まい活動助成

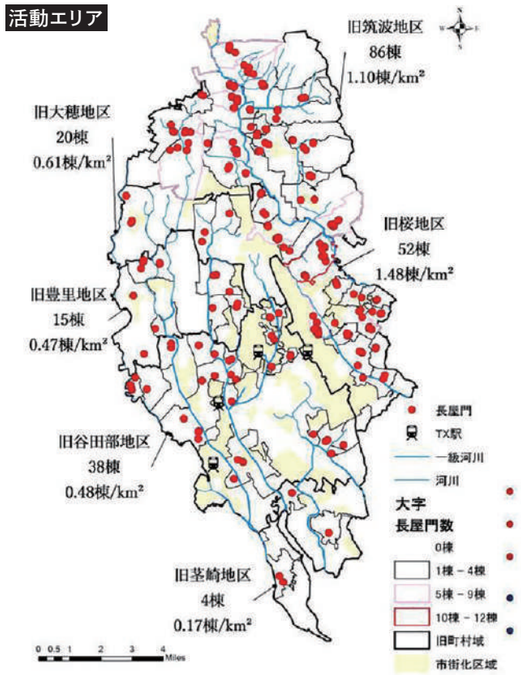
NPO法人 つくば建築研究会

茨城県つくば市

地域資産「長屋門」の維持継承で地域の景観づくりと振興に寄与する活動

2022年10月、つくば市内の長屋門を持つ古民家の清掃イベント。そろいのロゴ入りつなぎで活動を盛り上げる

活動エリア



つくば市および周辺地域に現存する長屋門の調査結果。200棟以上が残り、地域の景観を形成している

団体設立経緯

つくば市は建築博物館と言われるほど、有名建築家による現代建築が多く、それがまちの魅力の1つとなっています。2005年につくばエクスプレスの開業によって新しい住人が増えたことを機に、その魅力を調査・収集し、本の出版やシンポジウムの開催などの事業を通して発信するために、建築関係者を中心とした団体を立ち上げました。つくばの景観の向上と発展を目的としています。

活動概要と活動対象範囲

設立初期の大きな成果は、「**つくば建築フォトファイル**」という建築ガイドブックの編集・出版です。それを参考図書として、計画都市の中心市街地にある建築物を案内したり、シンポジウムを開催したりして、まちの魅力を発信していきました。現在では対象を周辺市街地に広げ、現存する「**長屋門**」の調査と、維持・継承に関わる活動を展開しています。

台坪コース（案）のゴールにある長屋門

活動に至った理由や背景

毎年開催してきたシンポジウムをきっかけとして、ある時から中心市街地の現代建築のみならず、周辺市街地にも異なる建築の魅力が潜んでいることに気が付くようになりました。

そこで古民家調査を実施したところ、近世諸大名の城郭や陣屋、武家屋敷門にルーツを持つ長屋門が、市内に200棟以上現存することが判明しました。さらに筑波大学の建築・地域計画研究室と共同で、長屋門所有者（以下、**もん主**という）へのインタビュー調査を実施。利活用の実態や、維持・継承していく際の課題を明らかにしました。この調査を通して維持・継承に積極的な考えを持つもん主とつながりができ、所有する長屋門の保全・改修活動へとつながっていきました。

活動内容と成果

ⅰ.「長屋門みち」ルートマップの作成事業

◇成果

周辺市街地に点在する長屋門を訪ねて巡る「**長屋門みち**」**ルートマップ**（**案**）を作成しました。史跡や絶景ポイント、有名店などを盛り込んだ3つのコースを開発。つくば市民にも知られていない歴史や文化といった地域資産を再発見し、地域への愛着を深める効果を見込みます。

◇活動内容

ⅰ-ⅰ.【2022年7月17日】吉瀬コース取材

故・磯崎新氏が設計した「つくばセンタービル」や、坂倉建築研究所による「つくば国際会議場」など、つくばセンター周辺の現代建築を視察した後、南東方向に進路を取りました。竹園ショッピングセンター内の高級食パン店や、何度もテレビの取材を受けた焼き芋販売店などを経由して、研究学園の地区外へ。

昼食後に鹿島神社、愛宕神社を通り、上の室地区にある長屋門を3棟視察。その後、吉瀬地区のキャンプ場「フォンテーヌの森」を経て、2棟の長屋門を視察。最後は長屋門を活用した古民家カフェ「家貨屋kakaya」でコーヒーをいただきながら、コースを振り返りました。

ⅰ-ⅱ.【10月9日】台坪コース取材

吉瀬コースと同様、スタートはつくばセンターとしました。歩車分離のペデストリアンデッキを北に向かって進み、陸橋の上からつくば中心市街地にあるトンネルと、トンネル内のバス停を見下ろします。

中央公園ではNHK朝ドラ「エール」でミュージカル仕立てのインサート撮影に使われた歩行者専用道路を通り、国家公務員宿舎、周辺地区の地名の由来となった吾妻神社跡を眺めながら、研究学園地区外へ。妻木地区の6棟の長屋門と妻木神社を巡り、奈良時代の条里制の痕跡をとどめる町割りを体感しながら東岡地区へ。この地区に唯一残る長屋門では、所有者の方から戦国時代まで遡った家の歴史をうかがうことができました。

昼食後は、金田（こんだ）地区の家並みと、上境地区の長屋門4棟を巡りました。土地区画整理事業で整備され、18年にまちびらきしたばかりの新興住宅地、春風台と流星台を通って、ゴールの台坪地区へ。その後、近くのブドウ畑とワイナリーを視察して疲れを癒やしました。

「長屋門みち」吉瀬コース（案）。つくばエクスプレスのつくば駅から市街地まで、およそ7.5kmの道のり

長屋門の清掃イベントでは、拠点として借り受ける準備として、不用品を整理・処分した

i-iii.【11月27日】台坪・大・吉瀬コース取材

つくばセンターからコミュニティバスを利用して約30分の栗原バス停からスタート。栗原地区の4棟の長屋門と、「大藍屋（おあいや）」と呼ばれた藍染めの大店跡を視察。つくば市唯一の国指定重要文化財である太塚家住宅、長屋門を巡り、昭和中期まで大きな市が立っていたという北斗寺を詣でました。

昼食後、つくば霞ヶ浦りんりんロードを走る自転車を見ながら、隣接する土浦市の長屋門5棟と鹿島神社、山の神神社、別雷（わけいかづち）神社を巡り、再びつくば市内へ。大地区の東福寺、幼稚園に改修工事中の古民家、バラ園と4棟の長屋門を回ってゴールの吉瀬へ。

取材終了後は吉瀬の長屋門を改修したギャラリーを借りて、当NPO法人の定例会を開催しました。同じ長屋門を活用した喫茶「まめは」からコーヒーをテイクアウトして、今年度の取材活動を締めくくりました。

ii.【10月23日】長屋門の清掃・拠点化イベント

◇成果

つくば市内には200カ所以上の長屋門が現存し、伝統的景観を形成しています。この景観を保全し継承していくために、長屋門を清掃し、地域の活動拠点として整備・活用する活動を広げていきたいと思います。今年度は初弾として、市内栗原にある築150年の長屋門で実践しました。

◇活動内容

当日は13時30分から、つくば市栗原にある長屋門の清掃と敷地内の草刈りを実施しました。インターネット上にアルバイト募集の広告を出し、関係者含め総勢27名が参加する大きなイベントとなりました。

この日のために作成した「**もん泊**」（長屋門に民泊する意味の造語、当NPOにて商標登録済み）ロゴ入りのつなぎを参加者に配布、おそろいのユニフォームで一体感を醸成し、大変盛り上がりました。

長屋門片付け清掃班、草刈り班、防腐剤塗装班、米倉片付け班、後方支援・記録撮影班の5班に分けて作業に着手。約4時間かけて清掃、ゴミの仕分け、貴重品などの保存を完了しました。

iii.【23年2月19日】第16回市民シンポジウム「さくら邑でやっぺ。長屋門と地域景観の継承」

◇成果

つくば市内外に対し、つくばの豊かな景観や歴史、文化を伝え、地域の価値を向上し振興に貢献することを目的として、シンポジウムの開催を続けています。地元ケーブルテレビACCSの取材が入り、当日のみならず多くの市民に向けての情報発信が実現しました。

◇活動内容

会場は、10月の清掃イベントでお世話になった栗原の古民家の母屋をお借りしました。参加者は37名。3名の発表者が講演しました。

最初の基調講演には、五十嵐立青つくば市長をお招きしました。「**クラフトライフで創る地域のこれから**」と題したこの講演で五十嵐市長は、富山県南砺市での地域おこしの事例や、スペインのモンドラゴン市、イタリアのボローニャ市でのワーカーズコープ（協同組合）による地域活性化の事例を紹介。つくば市で今後進めていく地域づくりの概要を、分かりやすく説明いただきました。

次に、当NPO法人の坊垣和明理事長より、「**あるいてみっぺ長屋門みち**」と題して、近年の活動を紹介。ルートマップ作成の取り組みや、実際に歩いてみることで見えた様々な発見などの成果を報告しました。

市民シンポジウムの告知ポスター

最後は「**邑でやったっぺ長屋門清掃**」と題し、会場の古民家もん主のご長男である郷悠司さんが発表。長屋門清掃の報告と感謝の言葉、そして今後の長屋門を含めた敷地内5棟の建物全体の活用方針、将来の抱負などを語っていただきました。

休憩をはさんだパネルディスカッションでは、参加者も交え活発な意見交換がありました。古民家の維持継承の課題や成功事例の披露、参加者と当NPO法人のコラボレーションの提案、参加者同士のつながりなどが生まれ、来年以降の活動にヒントと具体的提案をいただきました。古民家を維持し続けているある参加者から、「『この家、屋敷は自分の物と思うな。（地域社会からの）預かりものと思え』と、父から伝えられた」との発言があり、参加者一同から賛同の声が上がりました。

iv.【3月5日】米倉床下地張りイベント

◇成果

10月の清掃イベントで、同敷地内にある築103年を迎える米倉を片付けた際、補修をすれば長屋門と合わせて地域拠点として活用できると判断。腐って抜けた床の張り替えに向けて、イベントを実施しました。

年度途中での追加の活動となり、折からの資材高騰や工事費の上昇も相まって十分な予算が確保できず、今年度は床下地合板の施工までとなりました。

◇活動内容

束、大引き、根太の施工は建設会社に依頼しました。我々は断熱材となるスタイロフォームを根太に合わせてカッターで切り取り、その上から床下地の合板を釘で打ちつけていきました。施工が困難な一部の段差とピアノ用床補強部を除き、20坪、65m²ほどの面積の作業を終了するまで3時間ほどを要しました。

23年3月の米倉床下地張りでは、断熱材を敷き詰めて合板を施工。以降の作業は23年度に持ち越しとなった

課題と解決方策

大きな課題となったのは、物価高騰に伴う資材の値上がりでした。米倉の床改修に必要な大引きや根太、断熱材、下地合板、床仕上げ材が軒並み値上がりし、改修工事は年度をまたがざるを得ませんでした。23年度の助成をいただけない場合、他の助成制度に申請して賄うか、1年間床張りを待つこととなります。床下地の乾燥による材のあばれなどの懸念があり、建設会社からは早期の床仕上げを推奨されております。

また、長屋門は個人の敷地への出入り口に当たるため、ルートマップ上の表記には配慮が必要です。長屋門の位置の表現方法を工夫する、配布したマップの番号管理をする、などの対応方法を検討中です。

今後の予定

長屋門みちについて、さらに3コースを取材・作成します。併せてマップを使った体験イベントを開催することで、ルート内の史跡や絶景ポイント、名物店などの知名度向上や、来街者増による地域振興を見込みます。つくば市民にも知られていない、地域特有の歴史や文化などの地域資産の再発見によって、地域への愛着増進、地域貢献に向けた意識向上につなげられればと考えています。

また、栗原の米倉についてはなるべく早く床張りを完成させ、そこを会場として「もん主の会」を開催したいと思っています。各もん主が所有する長屋門の活用法について意見を交換し、資金調達に向けたスキームの検討を予定しています。これらの活動について、23年度も市民シンポジウムを開催して、広く報告・発信する予定です。

特定非営利活動法人つくば建築研究会

2005年2月設立、同年11月法人化／メンバー数:12人／代表者:坊垣 和明（ぼうがき・かずあき）

●〒305-0868　茨城県つくば市台町1-8-1

☎029-886-8039（永井 正毅）　FAX029-886-8035　✉info@tsukuba-arch.org

tsukuba-arch.org/

私たちは、つくば市および周辺地域の資産である伝統的景観の維持・継承を通して、地域の更なる景観の向上と発展・振興への寄与を目指しています。